

お母さんになったら
28年度 1月号



けんかをしてはいけないことをどのように教えたらいいのでしょうか？

けんかは、「してはいけないもの」ではありません。

子どもはけんかや小さないざこざの中から、少しずつ人間関係を学んでいきます。けんかをしながら大きくなっていきます。けんかは子どもの発達の上でむしろ必要不可欠なものです。けんかになりそうだからと大人がいつも止めてしまえば、「自分で物事を解決していく能力」や「他の人との関係を調整していく能力」がいつまでたっても身につきません。

例えば、誰かが使っていたおもちゃを何も言わずにとりてしまい、泣いてしまった子には、よその子でもわが子でも、「おもちゃが欲しかったんだね。今度からはきちんと“かして！”って言おうね。」としっかり話をしましょう。頭ごなしに叱るのではなく、子どもの思いをきちんと聞いてあげましょう。そして、いけないことはいけないと毅然とした態度で接しましょう。

双方を大人がしっかりフォローすることが大切です。そうしているうちに、子どもも少しずつ人間関係を調整していく能力を自分のものとして身につけていくのだと思います。

きょうだいげんかでも、これは同じです。繰り返し、子どもときちんと向き合って根気よく接しましょう。

